

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	秋田市立旭北小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数 1 8
学級数	2	2	2	2	2	2	1	1 3	
児童数	6 9	6 4	6 1	7 1	6 2	5 4	1	3 8 2	

研究の概要

1 研究主題

「確かな学力」の育成 ～分かる，できる，実感する授業づくり～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～6年国語科（全ての学習の基礎となる言語能力を培うため） ・ 1～6年算数科（内容の系統的な理解と習熟の積み重ねを要する教科であるため）
--

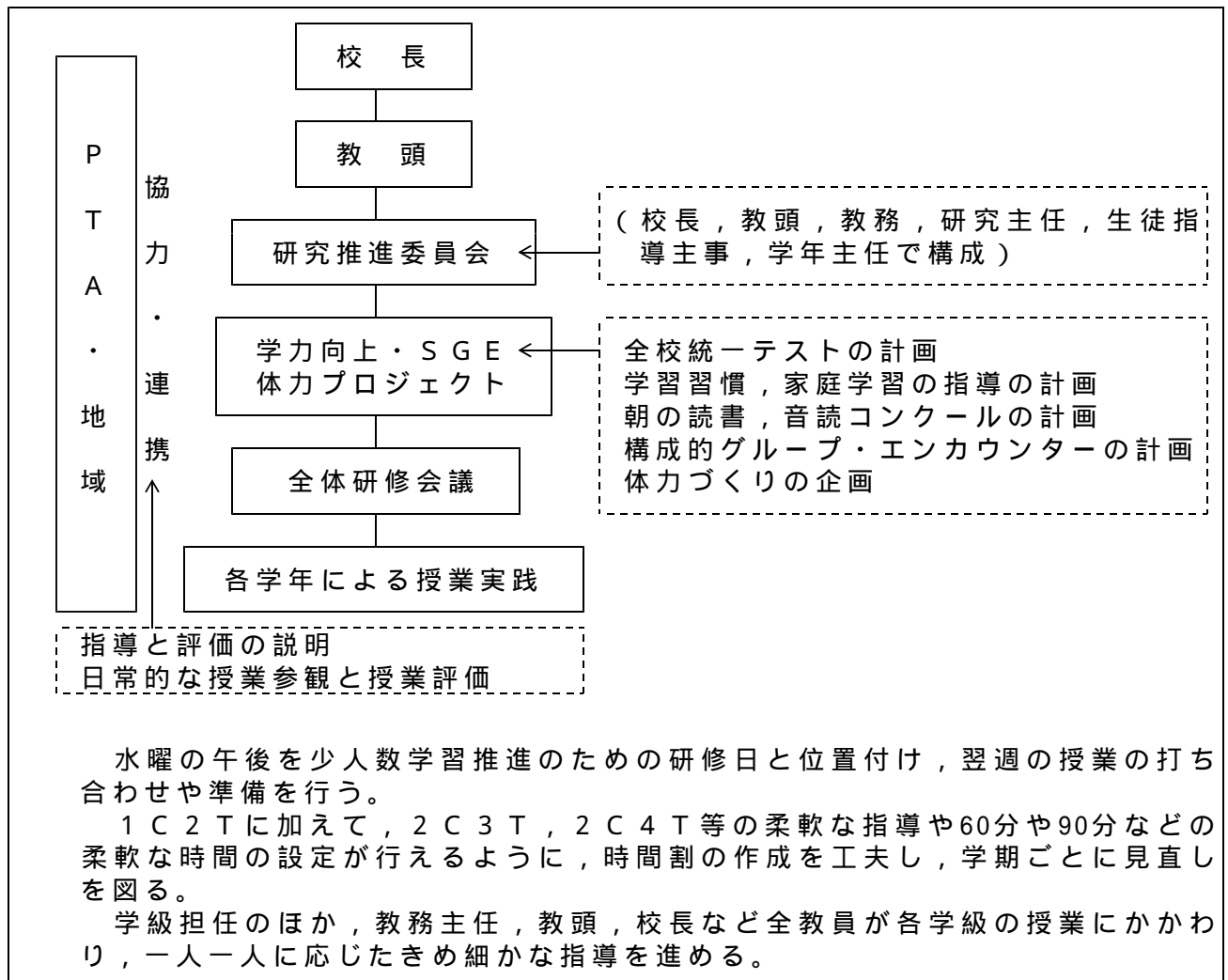
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」の育成 ～分かる，できる，実感する授業づくり～ 研究の見通し（仮説） 教師と子どもが1時間毎の「めあて」を共有し，教師による評価と，子どもによる学んだことやそのよさ・意味を自覚できる「振り返り」のある授業を日常化していくことにより，自ら学び自ら考える力が育成されるのではないか。</p> <p>授業のねらいを1時間に1目標，1観点，1領域を原則とし，子どもの実態に合わせて指導方法や指導形態を工夫していくことにより，基礎・基本の確実な定着が図られるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法 教師と子どもが共有する「めあて」と「振り返り」のある授業づくり 一人一人の子どもが達成感と有能感のもてる授業を展開していくために，明確なねらいのもとで，指導と一体化した評価を行う。そこで，1時間毎のねらい（評価基準）を教師と子どもが共有し，教師による評価と子どもによる「振り返り」のある授業を展開する。</p> <p>個に応じたきめ細かな指導の工夫 個に応じたきめ細かな指導を充実させていくために，「指導と評価計画」を作成し，ねらいと子どもの実態に合った指導方法や指導形態を工夫していく。</p> <p>日常的な授業参観を通じた家庭との連携 家庭との連携と指導の改善を図るために，たより等によるねらいと評価の説明や学習ノートをもとにした指導の説明に努めるとともに，授業について保護者から評価をしてもらう。</p> <p>定期的な学習状況調査・分析による授業改善 指導の改善に努めるために，定期的に学習状況について本校独自の実態調査を実施して，学習への意欲や学習内容の定着度について分析し，対応する。</p>
--------	---

平成
16
年度

テーマ
「確かな学力」の育成 ～分かる，できる，実感する授業づくり～
研究の見通し（仮説）
教師と子どもが1時間毎の「めあて」を共有し，教師による評価と，子どもによる学んだことやそのよさ・意味を自覚できる「振り返り」のある授業を日常化していくことにより，自ら学び自ら考える力が育成されるのではないか。
授業のねらいを1時間に1目標，1観点，1領域を原則とし，子どもの実態に合わせて指導方法や指導形態を工夫していくことにより，基礎・基本の確実な定着が図られるのではないか。
研究の内容・方法
各学年で到達させたい「学力の全体像（子どもの姿）」を具体化し，「学力の全体像」に至るために1時間，1単元の積み重ねはどうあればよいか，「指導と評価計画」を見直しながら実践を進める。
教師と子どもが共有する「めあて」と「振り返り」のある授業づくり
より主体的に，解決の見通しがもてる「めあて」と次時へつなげる「振り返り」のある授業を展開する。
個に応じたきめ細かな指導の工夫
「指導と評価計画」に指導形態を明示し，発展的・補足的な学習における教材の開発と蓄積を行う。
日常的な授業参観を通じた家庭との連携
評価規準と評価について，適切な機会に保護者に知らせる。
定期的な学習状況調査・分析による授業改善
前年度の結果と比較しながら，実践の自己評価，改善を行う。

(3) 研究推進体制



1 研究成果

单元ごとに「指導と評価計画」を作成してきたことにより、複数の教師が共通の指導観をもち、子ども一人一人の学習状況や学習成果を多面的に見取り、認め、励まし、評価する授業が日々積み重ねられるようになってきた。

「指導と評価計画」の作成と見直しについての研修会や授業研修会、授業実践についての教師による自己点検・自己評価は、日々の授業づくりを見直し、意見を交換する機会となった。

また、授業研修会では、授業評価用紙をもとに授業を見て評価し合うことで、その授業の視点に対して率直な意見が交わされるとともに、教師間で指導方法や指導形態の工夫を共有することができた。

教師と子どもが共有する「めあて」と「振り返り」のある授業が日常化されたことにより、教科の特性や身に付けさせるべき基礎的・基本的な内容に合った指導方法や指導形態が工夫され、子どもたちの学習意欲と自己評価能力が高まってきた。

本校独自の『学習意欲の実態調査結果』から、学習ノートへ「めあて」「振り返り」「学習内容」をきちんと書く子どもがいずれも90%以上となった。また、1～4年生では、「大好き+好き」の子どもが85%以上となり数値目標を達成することができた。5・6年生についても、「学習内容が分かる」子どもが、いずれも90%以上であることから、授業改善は進んでいると考えられる。

保護者による授業評価を取り入れたことにより、学校の取り組みに対する理解が深まり、家庭学習や生活習慣などへの協力が多く得られるようになってきた。

『保護者による授業評価』を見てみると、「意欲的に学習している」7月(88.5%)12月(100%)、「めあてをもって学習している」7月(82.1%)12月(97.1%)、「学習内容を理解しているか」7月(88.5%)12月(97.1%)といずれも向上している。自由記述を見てみると、「めあてがはっきりして分かりやすい。」「授業のノートを見ることで、家庭学習で何をやればよいのかがはっきり分かる。」「ノートを昨年の3倍使うようになった。」などの感想が出されていた。

本校で独自に実施している学習状況調査等による実態把握と補充指導により、基礎学力の定着を図る取り組みが効果を上げてきている。12月に実施した学習到達度調査では、1年間の学習内容の定着率がどの学年も71%以上であった。算数では、1年生(95.6%)、2年生(90.7%)など、数値目標の90%以上となった学年もみられるなど、僅かずつではあるが、向上してきている。

2 今後の課題

日々の授業の充実こそが、学力の向上につながることを確認している。日々の授業の充実のためには、教師自らが1時間ごとにねらいを明確にし、確実に「分かる」、「できる」、「実感する」授業はどうあればよいのかを考え、自己評価をしながら常に見直しを図っていくことが大切である。こうした1時間毎の積み重ねが、教師の指導力を向上させ、『確かな学力』の育成につながるものとする。

<今年度の課題>

「めあて」と「振り返り」を共有する授業が日常化されたが、ねらいは「指導と評価計画」から教師主導で設定されたきらいがある。今後は、一人一人の子どもがねらいを自らのものとして意識できるように、子どもとともに「めあて」を決めたり、解決への見通しをもたせたりするなどの工夫をしていく必要がある。

- ・ねらいと子どもの実態に合った指導方法や指導形態を工夫してきたが、複数教員による指導のよさを毎時間、十分に生かすには至っていない。計画、実施、評価の各段階での協働の在り方を工夫していく必要がある。
- ・個に応じたきめ細かな指導を行うために、子どもが必要感をもてる教材や習熟の程度に応じた複数の教材をさらに開発、整備、蓄積していく必要がある。
- ・学力の土台となる学習習慣の形成に全校で取り組んできたが、その定着に向けて次年度も継続して取り組んでいく必要がある。

<来年度の研究実践>

教師と子どもが「めあて」と「振り返り」を共有することにより、教師も子どもも常に到達度を意識しながら学習活動を行うようになった。このことが教師の指導の工夫を生み、ひいては子どもの学力の向上に結び付いたと考えている。来年度は、

こうした日常の授業展開を一層充実させるとともに、国語科と算数科において、その学年で到達させたい学力の全体像（子どもの姿）を具体的に描いて、日常の授業を通してその「子どもの姿」に着実に迫っていることを教師も子どもも実感する実践が必要であると考えている。

個に応じたきめ細かな指導の充実の深化

個に応じた指導の充実のためには、何よりもまず「ねらい」の明確化が必要である。1時間毎のねらいをより具体化し、一人一人の子どもたちに基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる指導方法を工夫するとともに、「指導と評価計画」へ指導形態を明示していく。

また、今年度作成した「単元と評価規準のマトリックス」をもとに、「評価基準表」の系統性を低・中・高の2年間、あるいは6年間で見直すことにより、基礎的・基本的な内容の積み重ねを適切なものとする。このことにより、基礎的・基本的な内容を深めたり、広げたり、補ったりする発展的な学習や補充的な学習を単元の適切な場面で実施していくことができるものとする。

教師と子どもが共有する「めあて」と「振り返り」の深化

子どもの発達段階や特性を考慮した、より主体的なめあてのめあてをもたせ方を工夫していくとともに、子どもたちが自分の力を正しく判断して、課題や学習方法を自己選択していく能力を高めていく。

保護者の授業評価を通じた家庭との連携の継続

定期的な学習実態調査・分析による授業改善の継続

研究成果の普及

今年度のオープン研修会に加えて、山王中学校区5校（山王中、川尻小、保戸野小、旭南小、旭北小）により開催されている連絡協議会などの機会を利用して、学習状況調査結果の考察や基礎的・基本的な内容の指導、学習習慣・生活習慣の指導などについて意見を交換し合うなど、成果の普及に努めていく。

また、オープン研修会を開催する際は、事前研修会の段階から山王中学校区5校の研究主任や教科主任等を招いて共に協議を重ねることにより、研究の活性化と共有化に努めていく。

学力等把握のための学校としての取組

本校独自の学習到達度調査の分析・対応（7・9・11・1・3月）

県学習状況調査の分析・対応（7月）

市基礎学力調査の分析・対応（11月）

学習意欲の実態調査の分析・対応（5・11・3月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本校の取り組みの公開について

11月の計画訪問と2月の要請訪問の授業を「オープン研修会」として公開することとした。「オープン研修会」は、本校で日常行われている授業をもとに意見を交換し合い、相互に研修する機会と位置付けている。

11月の「オープン研修会」では、山王中学区の各小・中学校と中央地区のフロンティア校、4校から9名が参加した。

また、2月の「オープン研修会」では、秋田市内の各小・中学校と県内のフロンティア校へ参観を求め、より多くの方々と意見を交換し合った。

他校の取り組みの視察について

これまで、各フロンティア校の公開研究会に参加し、授業改善の取り組みについて研修することができた。

5月 子吉小へ6名 10月 西馬音内小へ1名

11月 六郷小へ1名、出戸小へ2名、御所野小へ3名、福島県森合小へ1名

特に、子吉小学校の「学習スタイル別学習」については、本校でも取り入れ、単元や1単位時間の中で習熟度に応じた指導を柔軟に行っている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		